

葉色濃い！引き続き作溝・中干しを徹底！ 大切な根の活力を高めて高温に備えよう！

1 6月30日現在の生育診断圃の生育状況

品種	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	残存アミノ酸 態窒素 (mg/100g乾土)	出穂期
はえぬき 酒田市荻島 5/9移植	本年	51.4	614	10.0	44.0	2.3	7/29 8/3
	前年	54.8	784	9.9	42.3	2.2	
	平年	48.3	698	9.4	41.9	1.5	
	平年比	106	88	+0.6	+2.1	+0.8	
つや姫 酒田市漆曽根 5/11移植	本年	49.9	476	8.6	44.5	2.5	8/7 8/10
	前年	55.8	540	10.1	42.2	1.0	
	平年	46.2	505	9.2	43.3	1.1	
	平年比	108	94	-0.6	+1.2	+1.4	
雪若丸 酒田市前川 5/9移植	本年	45.5	675	9.7	52.2	2.9	8/1 8/4
	前年	42.4	753	9.5	45.4	1.8	
	平年	42.8	753	9.6	45.3	-	
	平年比	106	90	+0.1	+6.9	-	

6月後半の高温で水稻が盛んに窒素吸収し、葉色は品種の区別なくかつてない濃さとなっています。茎数は平年比ではやや少ないですが、指標穂数分の茎数は確保されており、ほとんどの圃場で6月上旬の生育停滞の影響は感じられなくなりました。

水田農業研究所の6月29日の調査では、「はえぬき」「雪若丸」「ひとめぼれ」で出穂が1～2日早まると予想されています。梅雨明けは6月29日頃と観測史上最も早く、今後も高温の予報であり、出穂がさらに早まることも十分想定されます。引き続き作溝・中干しを徹底し、適期に穂肥のできる稲姿にしましょう。

2 中干しの期間を確保することが最重要！

葉色がかつてなく濃い状況の今年は、まとまった期間確実に中干しを実施して生育を制御することが最も重要です。下表を参考に、穂肥施用直前まで中干しを継続しましょう。

地力：低～並 生育量：並	7～10日間を目安に 小ヒビが入る程度
地力：高 生育量：過多 葉色：極端に濃い	11～15日間を目安に やや強めの中干し (強すぎて上根が切れて しまわないよう注意)



生育が小さい圃場や砂質で乾きやすい土壌の場合、この程度で作溝に水を入水します。

生育が大きい場合、この程度で作溝に水を回して、その後しばらく中干しを継続します。

中干しの目的と以降の水管理を再確認！ **今大切なのは根の活力！**

中干しを行うことで、無効分げつが抑制され、葉色が低下し適期・適量の穂肥が実施できるようになります。また、上根の増加、受光態勢の向上、地耐力の強化が図られ、登熟の向上と倒伏の軽減につながります。

本年は6月上旬の低温等の影響で、根張りの悪い圃場が見受けられます。しっかり中干しをすることで本格的な暑い夏を迎える前に根の活力を高め、高温やフェーンなどの気象変動に耐えられる稲体にして行きましょう。

中干し後、幼穂形成期以降は稲体の水分要求量が高まるため、出穂するまで間断かんがいを継続しましょう。今後の水管理を効果的に行うため、作溝がきれいに切れているか確認し、不十分な場合はすぐに手直しを行いましょう。

**出穂は平年より
1～2日程度早い予想**

3 穂肥の施用は稲を良く見て慎重に 【穂肥の目安】

品種	予想 出穂期	葉色		施肥窒素量(N成分 kg/10a)		
		SPAD	葉色板	出穂30日前	出穂25日前	出穂20日前
はえぬき	8/2頃	35以下	4.5以下	1.5～2.0	—	(1.0～1.5)
		36～39.9	4.6～4.9	—	1.5～2.0	—
		40以上	5.0以上		1.0～1.5	
ひとめぼれ	8/1頃	33～37	4.3～4.7	—		1.0～1.5
雪若丸	8/2頃	40～44	5.0～5.4	—	1.5	—
つや姫	8/8頃	39以下	4.9未満	1.5(有機N入り)	—	—

生育量に応じて適期適量の穂肥を行いましょう。葉色が濃い場合は生育診断に基づき減肥または無施用となりますが、代わりに**ケイ酸資材の施用によって登熟向上を目指しまししょう。**

(KSK28、ケイ酸加里プレミア34等)

4 病害虫防除

病害虫防除所の発生予察情報では、斑点米カメムシ類の発生量は「やや多い」と予想されています。雑草での増殖抑制のため、畦畔・農道等の継続的な雑草対策を徹底しまししょう。

一斉草刈りデーは 7月23日(土)～25(月)です！



**中干しを継続し、
穂肥のできる稲姿に仕上げましょう！**

- 穂肥時期は、つや姫は有機質入り肥料で出穂の30日前、雪若丸は出穂の25日前です。遅れずに穂肥ができるように準備しまししょう。
- 葉色の濃いつや姫には、適期適量の穂肥施用ができません。茎数が多い・葉色が濃い圃場では、やや強めの中干しを行いましょう。
- 生育診断の時期は、つや姫が7月10日、雪若丸が6月30日です。生育を確認しまししょう。

農作業事故に注意！

作業機械、自身の体調を確認し
農作業安全に努めまししょう！

**熱中症に注意して、無理はせず、
水分・休憩をしっかりとしまししょう！**

